

滋賀県の地震

令和 7 年(2025 年)7 月

目 次

1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	-----	1
(2)概況	-----	1
(3)断面図	-----	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	-----	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	-----	4

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	-----	5
(2)概況	-----	5

3 地震一口メモ

7 月 30 日に発生したカムチャツカ半島東方沖の地震について

----- 6

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。

本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」にお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

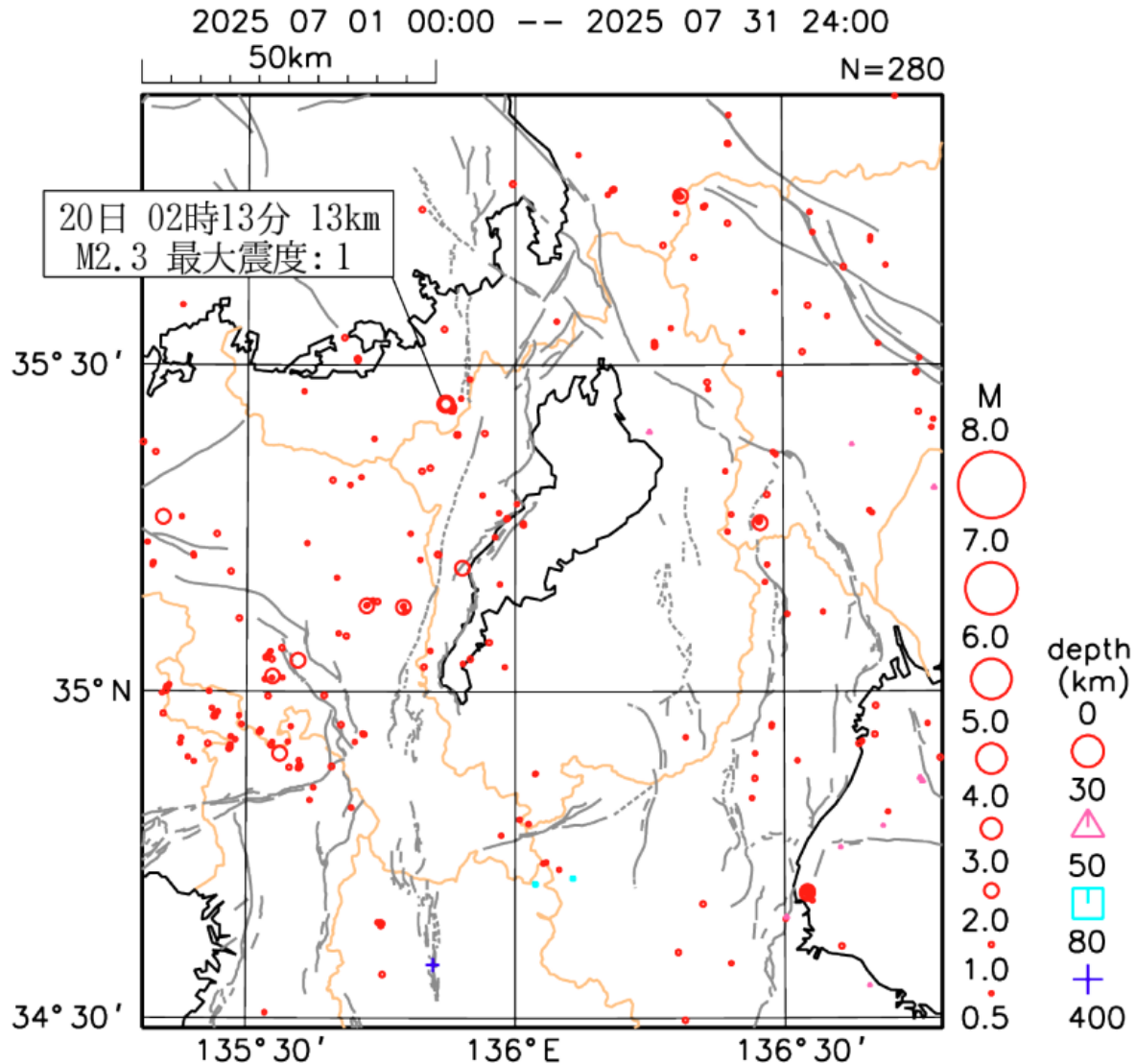
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

1 滋賀県の地震活動(令和7年7月)

(1) 震央分布図



震央分布図は、地図上に地震の震央を表示したもので、地震の活動を示すものです。

シンボルマークの位置により「緯度、経度」、大きさにより「地震の規模(マグニチュード)」、形状により「震源の深さ(km)」を表現しています。マグニチュード(M)とシンボルマークの大小、震源の深さ(depth)とシンボルマークの形状の対応は震央分布図の右側の凡例のとおりです。

図中の灰色の折線は、地震調査研究推進本部による主要な断層帯の概略位置です。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。

滋賀県で震度1以上を観測した地震には、日時・震源の深さ・マグニチュード・最大震度を付記しています(最大震度はその地震で観測された最も大きな震度で、滋賀県内の最大震度とは限りません)。

震央地名は経緯度の格子で区切っているため、県境付近では行政区域の境界と正確に一致しないことがあります。

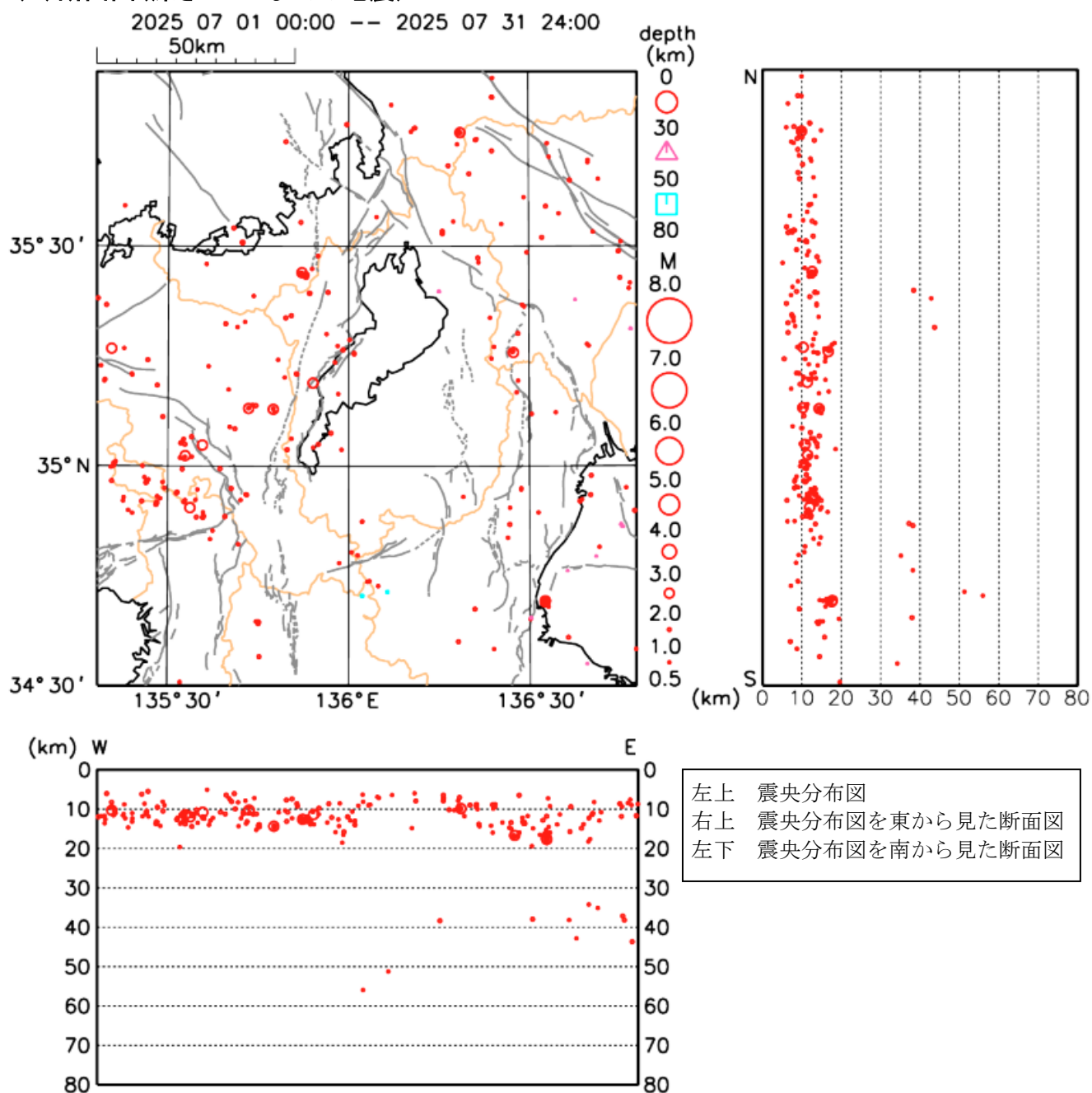
(2) 概況

7月に震央分布図の範囲内におけるM2.0以上の地震は13回(前月8回)でした。滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震は1回でした(前月2回)。

滋賀県内で震度1以上を観測した地震は、以下の通りです。

20日02時13分 福井県嶺南の地震(M2.3): 高島市で震度1

(3) 断面図(深さ 80km までの地震)



【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

(4) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の表

発震日時 各地の震度（滋賀県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
-------------------------	------	----	----	----	---------

2025年07月20日02時13分	福井県嶺南	35° 26.4' N	135° 52.2' E	13km	M2.3
-------------------	-------	-------------	--------------	------	------

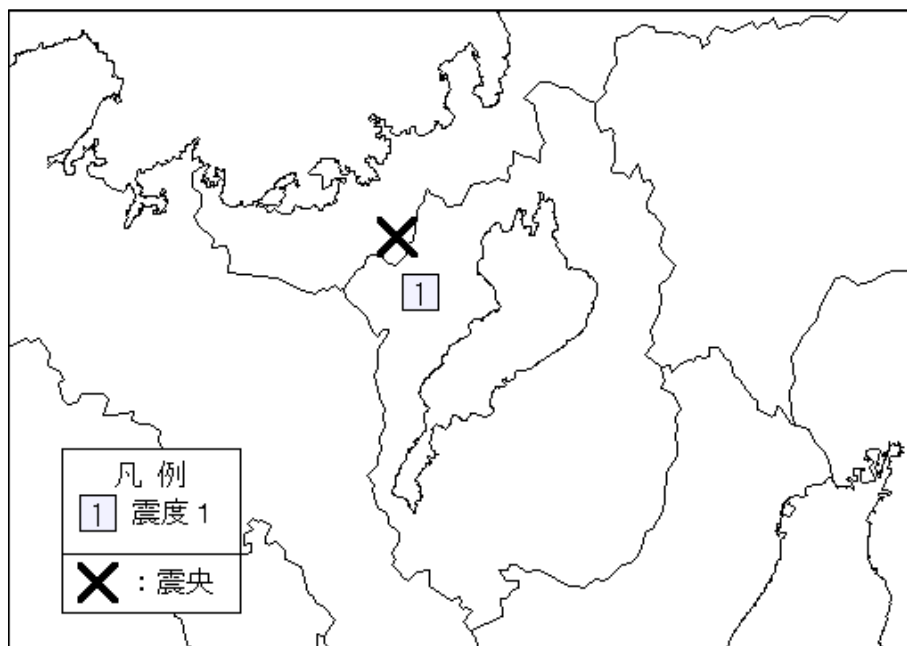
----- 地点震度 -----

滋賀県 震度 1 : 高島市朽木柏*

※ 名称の末尾に*がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

(5) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布

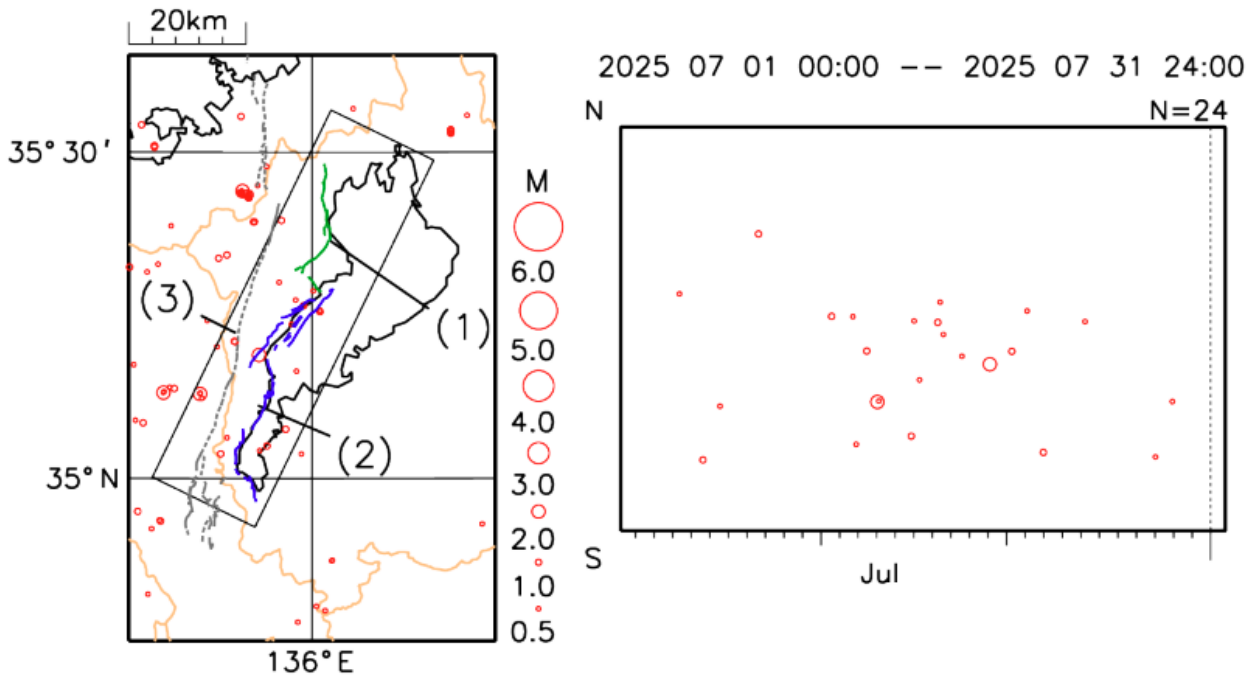
2025年7月20日02時13分 福井県嶺南 (M2.3)



各観測点の震度

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和 7 年 7 月)

(1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ 30km までの地震)



(上) 震央分布図

深さ 30km 以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。

- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部
- (3) 三方・花折断層帯

(右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸(縦軸)に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

(右下) 地震活動経過図(規模別)

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市(旧マキノ町)から大津市国分付近に至る断層帯です。全体として長さは約 59km で、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、断層帯北部と南部の 2 つの区間に分かれて活動すると推定されますが、全体が 1 つの区間として活動する可能性もあります。

断層帯北部では M7.1 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率は 1~3% と推定されます。

断層帯南部では M7.5 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率はほぼ 0% と推定されます。

(地震調査研究推進本部の長期評価(2009)による。ただし、地震発生確率の算定基準日は 2025 年 1 月 1 日。)

(2) 概況

7 月に震央分布図中の矩形領域内で観測された M2.0 以上の地震は 2 回(前月 0 回)で、同領域内の地震で震度 1 以上の揺れは観測されませんでした。

3 地震一口メモ

7月30日に発生したカムチャツカ半島東方沖の地震について

7月30日8時24分（日本時間）カムチャツカ半島東方沖で発生したMw（モーメントマグニチュード）^{*1}8.8の地震（Mwは気象庁による）により、気象庁は北海道から沖縄県にかけての太平洋側を中心に津波警報等を発表し、岩手県の久慈港^{*2}で1.4m（速報値）など、太平洋沿岸を中心に北海道から沖縄県にかけて広い範囲で津波を観測しました。

今後発生が想定される南海トラフ地震のように、津波が来る前には地震の大きな揺れがあると考えている人も多いと思いますが、今回の地震では国内の最大震度が2とあまり揺れていません。これは日本から遠く離れたカムチャツカ半島付近で発生したことが原因ですが、津波は海を伝搬するので離れた場所でも津波による被害が発生する事があります。1960年のチリ地震津波では太平洋の反対側で発生したMw9.5の地震に伴う津波が翌日に日本沿岸に到達し、死者・行方不明者142人、建物全壊1,599棟などの被害（日本被害地震総覧による）が発生しました。

気象庁は、国内のみならず海外の地震活動も監視しています。国外でマグニチュード7.0以上の地震や、都市部などに著しい被害が発生する可能性がある地域で規模の大きな地震を観測した場合^{*3}に、地震発生から概ね30分以内に「遠地地震に関する情報」を発表し、地震の発生時刻や発生場所（震源）やその規模（マグニチュード）、日本や国外への津波の影響や観測状況についてお知らせします。もし、日本で津波による被害の恐れがある場合は、津波警報等を発表して避難行動を呼びかけます。

滋賀県に海はありませんが、海岸や河口の近くで津波警報等の発表を知った場合は安全な場所へ避難し、津波警報等が解除されるまで避難行動を続けてください。

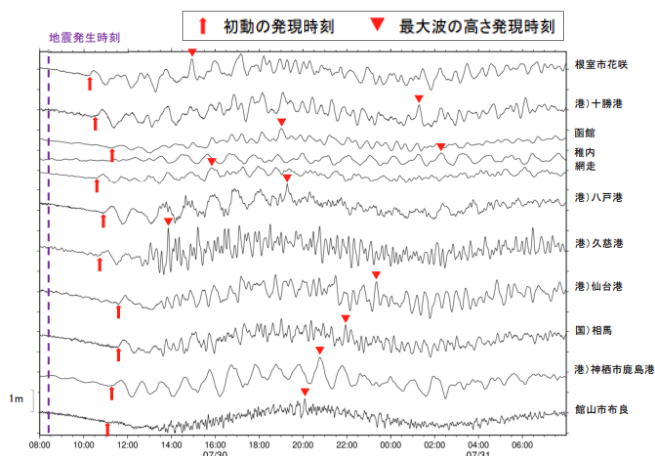
*1：モーメントマグニチュード 巨大な地震の規模を正しく求めることが出来る

*2：国土交通省港湾局の観測施設

*3：国外で発生した大規模噴火を覚知した場合にも発表することがあります

国外で発生した津波の特徴

- 国内で揺れをほとんど感じないため津波発生に気付かない
- 発生した津波は途中の海底地形や沿岸の影響を受けて反射・屈折を繰り返しながら様々な経路で日本に到達するため
 - ・津波が減衰しにくく、津波の高さが高い状態が長時間継続する傾向がある
 - ・津波の第一波到達から長い時間が経ってから、津波の高さが最大となる場合がある



今回の地震における北海道から関東地方の津波観測状況
気象庁報道発表

「令和7年7月の地震活動及び火山活動について」
別紙2（世界の主な地震活動）」から抜粋

気象庁報道発表資料「令和7年7月の地震活動及び火山活動について」

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2508/08e/2507jishin.html>

気象庁HP 津波警報・注意報、津波情報、津波予報について

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/joho/tsunamiinfo.html>